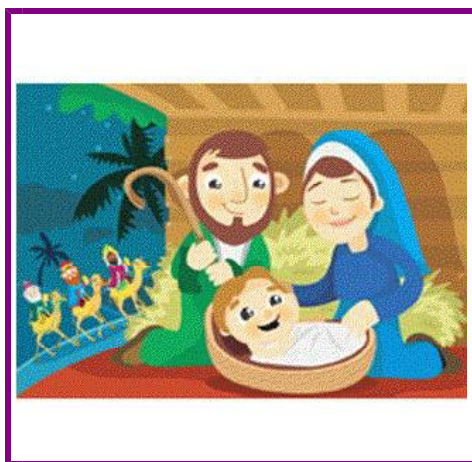


めぐみイエス・キリスト教会

2025年12月14日(日)第二主日(第Ⅲアドベント)礼拝
午前10時より
週報「通算第788号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌80「天なる神には」 p. 110

【交読文】 No.1 詩篇第1篇 p. 879

【賛美Ⅱ】 新聖歌77「きよしこの夜」 p. 105

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天より来られし」

【聖書朗読】 ルカの福音書11章45節～54節 (p. 140上段)

【礼拝説教】 《パリサイ人のパン種》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所ルカの福音書12章1節～3節

12:1 そうしているうちに、数えきれないほどの群衆が集まって来て、足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに話し始められた。「パリサイ人のパン種、すなわち偽善には気をつけなさい。

12:2 おおわれているもので現わされないものではなく、隠されているもので知られずにすむものではありません。

12:3 ですから、あなたがたが暗闇で言ったことが、みな明るみで聞かれ、奥の部屋で耳にささやいたことが、屋上で言い広められるのです。」

●ポイント1.主イエスによる同じ教えから

※マタイの福音書16章6節～12節「四千人の給食の後に」(新約p.33)

16:6 イエスは彼らに言われた。「パリサイ人たちやサドカイ人たちのパン種に、くれぐれも用心しなさい。」

16:7 すると彼らは「私たちがパンを持って来なかったからだ」と言って、自分たちの間で議論を始めた。

16:8 イエスはそれに気がついて言われた。「信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。」

16:9 まだ分らないのですか。五つのパンを五千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。

16:10 七つのパンを四千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。

16:11 私が言ったのはパンのことではないと、どうして分らないのですか。パリサイ人たちとサドカイ人たちのパン種に用心しなさい。」

16:12 その時、彼らは用心するようにとイエスが言われたのはパン種ではなく、パリサイ人たちやサドカイ人たちの教えであることを悟った。

●ポイント2.覆われているもの(奥義)と隠されているもの(真理)とは？

※ルカの福音書9章20節～21節「ペテロのキリスト告白」(新約p.131)

9:20 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、私をだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」

9:21 するとイエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。

●ポイント3. 現代訳の聖書箇所から

※ルカの福音書12章2節～3節「全く異なる解釈」

12:2「覆われているもので現わされないものではなく、隠されているもので、知られないものはありません。」

12:3ですから、私が内輪の弟子にだけ伝授した奥義を、今こそ公然と言い広め、伝道しなさい。」

◎先週のメッセージ【災いとならない為に】

《主イエスは、あるパリサイ人に食事に誘われました。何と、食卓には多くのパリサイ人と律法の専門家たちがいたのです。「先生。そのようなことを言われるなら、私たちまで侮辱することになります。」パリサイ人を否定することは、自分たちを否定することだと思ったからです。「おまえたちも災いだ。律法の専門家たち。人々には負いきれない荷物を負わせるが、自分は、その荷物に指一本触れようとはしない。」

もし、昔の人の言い伝えが正しい解釈であれば問題ないのですが、その実態は、勝手に付け加えた人間の規則なのです。また、それを守っていれば救われるというのが、彼らの教えの中心でしたから、それは「重い荷物を人々に課している」ことのほかなりません。

そして、何と自分たちはその規則の抜け道を作って、うまく逃れていたのです。彼らが本当にそれを守れば救われると信じていたなら自分も本気で守ったでしょうし、また人々が守れるように手を貸してあげたはずです。しかし、彼らは、指一本も貸そうとはしませんでした。

要するに、一般の人々を「昔の人の言い伝え」によって縛り、コントロールしていたわけです。

『「すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のもとに来なさい。私があなたがたを休ませてあげます。」』と、主イエスは言われました。

主が言われる「重荷」とは、まさに彼らが背負わせた物を指しています。これは、一般の人々に取っては「災い」の何ものでもないのです。

私たちはどうでしょうか。教会内において、このような災いになっていないでしょうか。得てして教会では、熱心に信仰生活を送っている人が、あまり熱心ではない人を裁いたりするものです。また、遣わされている場所において、私たちが災いとなっていないでしょうか。私たちは、災いではなく、主によって、祝福とされた者たちなのです。》

◎お知らせ

※本日、幕張キリスト教会において、佐野盾一さんのChristmas Concertが行なわれます。開場が午後2時30分で、開演が午後3時です。